

母子間の心理的距離の測定について（Ⅲ）

—その妥当性の検討—

山下 文雄（久留米大学小児科）

板井 修一（福岡県精神衛生センター）

秋山 俊夫（福岡教育大学）

橋爪 広好（橋爪小児科医院）

七浦 久子（東筑紫短期大学）

はじめに

これまで、母子関係をとらえる方法として、種々のテストが使われてきた。しかし、乳幼児期の子供を持つ母親の子供との関係を検査しようとする、適当なものが見つかったように思われる。そのため我々は、母子関係を簡便に、しかも客観的にとらえることのできる検査法の工夫が必要と考えてきた。

人に対して抱く感情やイメージを、たとえば「離れたくない」とか「近寄り難い」と言うように、距離を意味する言葉で表現することがある。こうしたことから、人に対して抱く感情やイメージは、心理的距離という言葉で表現できる。また、心理的距離は言語的表現の中にとらえられるだけでなく、実際の行動においてもどのような距離をとるかによって知ることができると考えられる。こうした考え方から、母親が子供に対してどのような物理的、空間的距離をとるか、投影的にとらえることによって、母親の子供に対する心理的距離を明らかにすることができるのではないかと考えられる。我々の考案した「母子間の心理的距離テスト」は、こうした仮説に基づいて作成したものである。

この研究の目的は、このテストが母子関係をとらえる検査法として、妥当性があるかを検討することである。そのために、このテストで測られる物理的、空間的距離にどのような意味が含まれているかを調べる。

研究方法

〈対象〉 調査対象は、Q市内にある幼児教育研究所の母子通園教室に來所している母親36名である。子供の年齢は、1歳8カ月～4歳10カ月までの幅がある。年齢構成は1歳児2名、2歳児4名、3歳児20名、4歳児10名である。性別は男児が22名、女児が14名であ

る。

〈調査内容〉 1) 母子間の心理的距離テスト。このテストは、図1に示すように24×24cmの枠の中央に、子供のお座りした姿を画いた図版と、母親の姿を画いた母親カードを使用する。図版は9枚あり、それぞれに条件文が書かれ、9種の異なる場面が設定されている。条件は、子供と母親の機嫌の良し悪しとその組み合わせから8条件を作り、ニュートラル条件と合わせ9条件とした。母親には各条件に応じて、図版の最も適当と思う位置に母親カードを貼らせる。

2) テスト結果についての聞き取り面接。面接は個別に行い、主に次の3つの事柄について、母親の感想や意見を求めた。①そこに母親カードを置いてどんな感じがするか。②どうしてその位置、その場所に置いたのか。③何をしているところか。これらの間に対する回答から、母親のとり距離がどのような感情や態度に基づいているか知ろうとした。

〈整理方法〉 面接により聞き出した母親の距離についての説明を、その内容から18項目に分類した(表1)。この説明の項目と、母親が子供に対してとり距離、位置、向きとどのように関連しているかを見る。

結果と考察

1) 距離との関連：表2に母親の距離についての説明の仕方を、各条件別にまとめた。表から分かるように、子どもの機嫌の悪い時、母親は「確認」や「身体的関り」、「感情安定化への努力」が多くなっていた。ところが子供の機嫌が良いと、「観察」や「放任」が多くなっていた。母親の機嫌の悪い時には、イライラした顔を見せて、かえって子供の機嫌を損ねることがあってはいけないということから、「関係回避」が多くな

っていた。また母子ともに機嫌の悪い時には、「放任」、「無視」、「関係回避」が多かった。

設定された条件により、母親は子供に異った対応の仕方をしているが、そこでとられる子供に対する距離も大きく異っていた(表3)。母親が「確認」や「身体的関り」をしている時には、子供と非常に短い距離をとっていた。全体についてみると、「確認」が35.9mm、「身体的関り」が21.6mmであった。ところが、「観察」や「放任」では、それぞれ96.6mm、98.6mmと離れる距離が長くなっていた。

条件別に見ると、子供の機嫌の悪い時には、「確認」が多く32.6mmと距離も短かくなっていた。また、「身体的関り」も多く、距離は19.0mmと短かかった。ところが、子供の機嫌が良いと、「観察」や「放任」が多く、距離も長くなっていた。母子ともに機嫌の悪い時、母親は子供との関係を回避するために、108.6mmも離れていた。

2) 位置との関連: 図2からも分かるように子供と言語的、身体的、行動的に関りを持つとすると、母親は子供の「正面」に位置することが多かった。

「確認」の場合では、82.4%の者が「正面」に位置していた。一方、「観察」、「放任」、「無視」といった場合には、「正面」よりも「斜め前」や「斜め後ろ」の方が多かった。

3) 向きとの関連: 図3に示すように、子供の機嫌を確認したり、子供と言語的、身体的、行動的に関りを持つとする時、母親は子供を「視野中央」でとらえようとするのが、70~80数%になっていた。ところが、「関係回避」、「無視」といった態度をとる時は、30~40%ほどのものが「視野中央」で子供を見るに過ぎなかった。

4) こうした結果から、母親の子供に対する感情や態度は、種々の場面によって異った形で現われることが分かる。また母親の子供に対する感情や態度の違いは、母親が子供に対してどれだけ離れたり近づいたりするかという距離のとり方や、子供に対する位置や向きのとり方にも現われていると言えることが確められた。こうしたことから、「母子間の心理的距離テスト」が、母子関係を見るテストとして妥当なものであると考えてよいと思われる。

表1 距離についての母親の説明の分類

-
- 1) 言語的関り……………お話をする、うたを歌う、本を読んでやる。
 - 2) 身体的関り……………抱っこ、おんぶ、頭をなでるなどの身体的接触。
 - 3) 行動的関り……………一緒に遊ぶ。子供の相手をしてやる。
 - 4) 追従……………子供の後について歩く(おいかける)。
 - 5) 確認……………どうして子供が……なのか確かめようとする。
 - 6) 感情安定化への努力……………子供が不機嫌なのをなだめる、あやす。
 - 7) 叱責……………感情的に叱る。
 - 8) 注視……………顔をのぞきこむ。じっと見る。
 - 9) 観察……………子供のすることを見ている。見守っている。
 - 10) 無視……………そっぽをむく。
 - 11) 放任……………好きなようにさせておく。放っておく。
 - 12) 関係回避……………構いたくない。
 - 13) 別行動……………子供とは関係なく仕事をする。他のことをする。
 - 14) 独立分離……………独立させるため離さないといけな。分離させるため。
 - 15) 有害刺激の回避……………子供に不機嫌な顔を見せたくない。
 - 16) 子供への依存……………自分が安心していられるため。気がまぎれる。
 - 17) 依存欲求の満足……………子供が安心していられるように。
 - 18) その他……………上記以外のもの。
-

表2 各条件別に見た母親の距離についての説明

条 件	ニュートラル	子供：悪	子供：良	母親：悪	母親：良	子供：悪 母親：悪	子供：悪 母親：良	子供：良 母親：悪	子供：良 母親：良	全 体
項 目	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)
1) 言語的関わり	9(25.0)	6(16.7)	4(11.1)		6(16.7)	1(2.8)	6(16.7)		12(33.3)	44(13.6)
2) 身体的関わり	1(2.8)	10(27.8)	2(5.6)	1(2.8)	4(11.1)		4(11.1)		5(13.9)	27(8.3)
3) 行動的関わり	6(16.7)	4(11.1)	8(22.2)	1(2.8)	13(36.1)	2(5.6)	12(33.3)	1(2.8)	21(58.3)	68(21.0)
4) 追従			1(2.8)				1(2.8)			2(0.6)
5) 確認		12(33.3)				1(2.8)	4(11.1)			17(5.2)
6) 感情安定化への努力		8(25.0)					4(11.1)			13(4.0)
7) 叱責		5(13.9)		2(5.6)		3(8.3)	1(2.8)			11(3.4)
8) 注視	1(2.8)	3(8.3)			8(22.2)					12(3.7)
9) 観察	11(30.6)	5(13.9)	12(33.3)	3(8.3)	11(30.6)	4(11.1)	5(13.9)	5(13.9)	4(11.1)	60(18.5)
10) 無視			1(2.8)	2(5.6)		6(16.7)	1(2.8)	4(11.1)		14(4.3)
11) 放任	1(2.8)		8(22.2)	1(2.8)	1(2.8)	10(27.8)		4(11.1)	2(5.6)	27(8.3)
12) 関係回避	2(5.6)	2(5.6)	1(2.8)	7(19.4)	1(2.8)	5(13.9)	3(8.3)	5(13.9)	1(2.8)	27(8.3)
13) 別行動	2(5.6)		2(5.6)	4(11.1)		2(5.6)		3(8.3)		13(4.0)
14) 独立分離	1(2.8)								2(5.6)	3(0.9)
15) 有害刺激の回避		1(2.8)		20(55.6)		3(8.3)		14(38.9)	1(2.8)	39(12.0)
16) 子供への依存	1(2.8)	1(2.8)	1(2.8)	5(13.9)		1(2.8)		3(8.3)		12(3.7)
17) 依存欲求の満足	2(5.6)	1(2.8)						2(5.6)		5(1.5)
18) その他	2(5.6)	1(2.8)	2(5.6)	2(5.6)	3(8.3)	5(13.9)	2(5.6)	3(8.3)	1(2.8)	21(6.5)

(注) 表中の太字部分は、各条件での説明のうち高い割合で見られた説明項目の上位3つを表す。

表3 各条件別にみた母親の説明と距離との関係

条 件	ニュートラル	子供：悪	子供：良	母親：悪	母親：良	子供：悪 母親：悪	子供：悪 母親：良	子供：良 母親：悪	子供：良 母親：良	全 体
項 目	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$	$\bar{x}(S. D.)$
1) 言語的関わり	24.6(5.91)	26.8(7.75)	30.2(13.53)		54.0(36.24)	19.0(0)	28.8(9.41)		24.1(3.96)	30.5(18.68)
2) 身体的関わり	27.0(0)	19.0(4.17)	23.0(3.00)	22.0(0)	27.5(9.60)		19.3(4.92)		22.2(3.19)	21.6(6.00)
3) 行動的関わり	25.0(5.72)	31.0(6.52)	23.3(6.51)	32.0(0)	41.8(27.96)	27.0(0)	24.7(4.07)	22.0(0)	35.6(29.01)	31.9(21.79)
4) 追従			105.0(0)				11.0(0)			108.0(3.00)
5) 確認		32.6(24.71)				112.0(0)	26.8(9.04)			35.9(28.60)
6) 感情安定化への努力		25.4(7.09)					26.3(1.92)			23.8(7.01)
7) 叱責		33.6(6.41)		62.5(4.75)		25.0(5.72)	42.0(0)			37.3(24.55)
8) 注視	30.0(0)	27.3(7.13)			65.0(58.70)					43.9(42.83)
9) 観察	106.1(39.09)	72.6(52.83)	93.1(41.90)	121.7(17.21)	83.8(47.09)	47.3(19.98)	46.6(32.13)	128.4(20.22)	109.5(4.30)	96.6(45.99)
10) 無視			115.0(0)	25.0(8.00)		69.8(43.51)	26.0(0)	45.5(38.51)		59.4(47.41)
11) 放任	149.0(0)		102.5(48.29)	161.0(0)	142.2(0)	81.5(41.74)		87.0(47.51)	114.0(3.00)	98.6(46.15)
12) 関係回避	69.5(19.50)	134.5(22.50)	55.0(0)	88.1(35.07)	43.3(0)	108.6(39.40)	66.0(33.44)	126.0(44.56)	142.0(0)	97.7(43.45)
13) 別行動	117.0(0)		134.5(22.50)	118.8(28.46)		91.5(22.50)		103.7(17.75)		112.8(25.62)
14) 独立分離	150.0(0)								152.5(4.50)	152.5(45.01)
15) 有害刺激の回避		95.0(0)		107.3(47.12)				83.7(46.39)	23.0(0)	93.3(48.19)
16) 子供への依存	27.0(0)	21.0(0)	50.0(0)	74.6(53.96)		63.0(0)		62.0(56.59)		65.2(54.64)
17) 依存欲求の満足	77.0(50.00)	39.0(0)						85.0(57.00)		72.6(50.94)
18) その他	33.5(11.50)	38.0(0)	30.5(0.50)	95.0(64.00)	85.3(40.00)	87.8(47.58)	35.4(7.50)	88.0(42.10)	103.0(0)	70.8(46.25)
全 体	69.6(48.94)	35.0(28.26)	72.9(51.39)	90.5(51.52)	59.0(45.21)	81.8(48.42)	34.2(24.39)	85.8(48.88)	51.3(46.59)	

(注) 表中の太字部分は、各条件での説明のうち高い割合で見られた説明項目の上位3つを表す。

この部屋の中央にいるのは、あなたのお子さんです。お子さんは、イライラとして機嫌が良くありません。あなたは、どこにいたいと思いますか。その場所に、自分のカードをはりつけてください

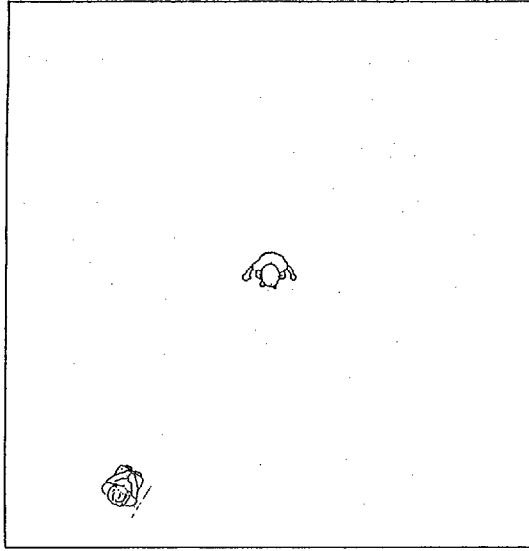


図1 母子間の心理的距離テストの図版と母親カード

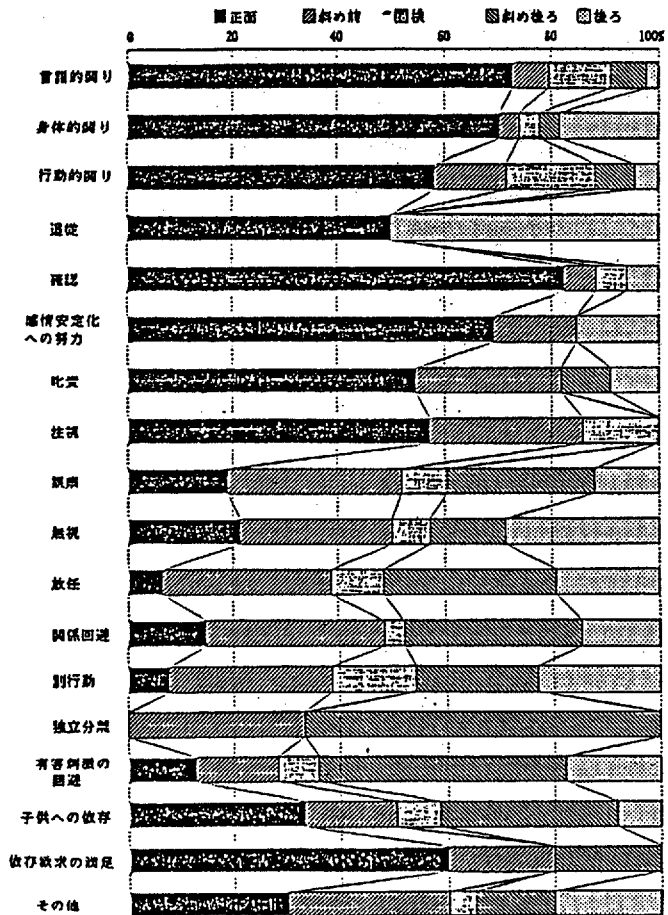


図2 母親の説明と位置との関係

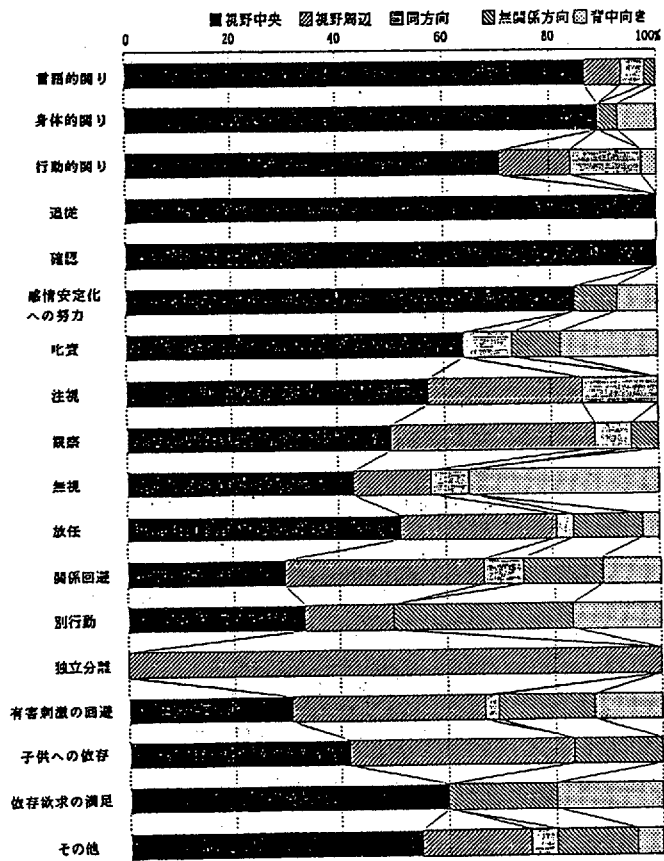


図3 母親の説明と向きとの関係



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

これまで、母子関係をとらえる方法として、種々のテストが使われてきた。しかし、乳幼児期の子供を持つ母親の子供との関係を検査しようとする、適当なものがなかったように思われる。そのため我々は、母子関係を簡便に、しかも客観的にとらえることのできる検査法の工夫が必要と考えてきた。

人に対して抱く感情やイメージを、たとえば「離れたくない」とか「近寄り難い」と言うように、距離を意味する言葉で表現することがある。こうしたことから、人に対して抱く感情やイメージは、心理的距離という言葉で表現できる。また、心理的距離は言語的表現の中にとらえられるだけでなく、実際の行動においてもどのような距離をとるかによって知ることができると考えられる。こうした考え方から、母親が子供に対してどのような物理的、空間的距離をとるか、投影的にとらえることによって、母親の子供に対する心理的距離を明らかにすることができるのではないかと考えられる。我々の考案した「母子間の心理的距離テスト」は、こうした仮説に基づいて作成したものである。

この研究の目的は、このテストが母子関係をとらえる検査法として、妥当性があるかを検討することである。そのために、このテストで測られる物理的、空間的距離にどのような意味が含まれているかを調べる。